



# 同窓会報

岐阜県立益田清風高等学校 ● 益田清風高等学校同窓会事務局

第3号  
令和4年  
秋冬号

〒509-2593 岐阜県下呂市萩原町萩原 326-1  
TEL0576-52-1021 FAX0576-52-1369  
URL <https://school.gifu-net.ed.jp/mseifu-hs/>  
E-mail [c27394@gifu-net.ed.jp](mailto:c27394@gifu-net.ed.jp)



## 益田清風高等学校同窓会会報（第3号）発刊にあたり

### ～令和6年100周年記念に向けて～

同窓会長 小林 正和（益田 昭和46年卒）

会員の皆様方におかれましては、ご清栄のこととお慶び申し上げます。

今般、皆様のご協力をいただき第3号の同窓会報を発行することができました。

ご承知のとおり、益田清風高等学校は2年後（2024年）には記念すべき創立100周年の大きな節目を迎えます。この歴史ある母校が創立100周年を迎えるにあたり記念事業実行委員会では、校門周辺の整備、記念式典、記念誌の発行等を計画し事業の推進を図っているところでございます。

また皆様方のご協力をいただき、このほど10年ぶりに同窓会名簿を発行することができました。多くの名簿作成協力金、協賛広告をいただき厚く御礼申し上げます

昨年は、同窓会報第2号も10年ぶりに発行、学校の近況や箱根駅伝などに出場する卒業生の活躍などをお知らせしたところです。

今回の第3号では、国内外の各界各層でご活躍されています卒業生の方々に寄稿をお願いし青春時代の思い出やご活躍の様子などをいただきました。

こうした卒業生の方々が各方面でご活躍されていることは誠にうれしく頼もしいかぎりです。

今後、創立100周年記念事業の状況や会員皆様方の情報交流、母校の情報や生徒の活躍ぶりなどを学校ホームページの同窓会コーナーでもお知らせしていくことで同窓会の交流がより盛んになることを願っております。

「ますこう」、「ますなん」の愛称で長年親しまれてきた学校も、統合して16年が過ぎ、最近では「せいふう」として生徒、保護者の方はじめ地域にも馴染んできたようです。私世代の60過ぎた年代ではちょっと寂しい思いもありますが、我が母校、益田清風高校が地域に親しまれ誇れる下呂市唯一の県立高校として、益々の発展を願ってやみません。新型コロナ感染の第7波、経済情勢の不安定、天候不順など先行き不透明の中ではありますが、会員皆様のご健勝とご多幸を心から祈念しております。

終わりに同窓会報発行にご協力をいただきました皆様に厚くお礼申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



# 不易と流行



校長 佐藤 尚史

校門へと続く農林坂の咲きそろっていた桜も新緑輝く葉桜となり、朝、昼、放課後と校歌が流れる学び舎には、生徒の活気に満ちた声が響いています。今春165名の新入生を迎え、全校生徒486名と教職員79名そして同窓生の皆様や地域の方々のご支援のもと、令和四年度が始まりました。教育で大切にしたい「時代を超えて変わらない価値のあるもの」(不易)とは、自ら学び、主体的に考え、課題を解決する力であり、協調性や相手を思いやる心などの豊かな人間性であると考えます。一方、コロナ禍において「時代の変化とともに変えていく必要があるもの」(流行)に柔軟に対応することは教育に課せられた課題ですが、一人一台タブレットの導入を「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実させる機会と捉え、諸先輩方が築き上げられた百年の歴史と伝統を礎に永く存続する「地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校」として教育活動を進めてまいります。

同窓生の皆様方の益々のご活躍を祈念申し上げますとともに、益田清風の歴史を創っていく母校生徒の応援団としてご指導ご支援を賜りますようお願いいたします。

# 地域に密着した

## 高校をめざして

生徒会長 都筑 天平

私は高校に進学するなら、益田清風高校と決めていました。なぜなら、父、祖父ともに益田清風高校の出身ということもあり、とても身近に感じていたからです。そして、この歴史ある高校で生徒会長を務めることになり身が引き締まる思いです。

益田清風高校は、令和六年に創立一〇〇周年を迎えます。私は生徒会長として、この歴史と伝統のある益田清風高校をよりよくしていきたいという思いで取り組んでいます。その中の一つに、地域に密着した高校づくりがあります。今後、自分たちの息子や孫の代まで自慢できる母校であるためには、高齢者と若者のつながりを大切にしていく必要があると思います。そのために地域との連携活動を積極的に行っていきたいです。

今年度の四月には一年生を中心に創立一〇〇周年に向けた生徒実行委員会が立ち上がりました。生徒が中心となり、創立一〇〇周年を祝う事業を計画していきたいと考えております。

生徒会長として、社会でご活躍されている偉大な卒業生の方々に恥じないよう、地域から愛される学校作りに邁進していきたいと考えております。

最後ではありますが在校生代表として創立一〇〇周年を心よりお慶び申し上げます。



大正15年頃の校舎



農林1回生修学旅行(大正15年)



女子部設置(昭和4年)



軍事教練



昭和初期の農林坂



稲藁縄作り

## 私の人生とふるさと



熊崎綜合法律事務所所長  
弁護士 熊崎 勝彦  
益田 昭和35年卒

加齢とともに故郷を懐かしむことが多い。戦後の日本が高度成長期に入った昭和三十二年母校に入学、のびのびとした学風で進学する者も少なく、余り勉強もしなかった。父の家業を継ぐべしとの意向に逆らって上京。就職したが向学心を捨てきれず、質屋で入手した古い座机で勉強、明治大学法学部に入学し最難関といわれた司法試験に挑戦して合格、検事に任官。これがその後の人生の転機に。東京地検特捜部に長年勤め、政財界にまたがる多くの重大事件の捜査に関わり、厳しい体験を積んだ。退官後、弁護士、大学客員教授等や日本プロ野球コミッショナーの大任も担うことに。振り返ると、時には進むも地獄、退くも地獄、厚い壁に阻まれたことも。だが超えられない試験はない。多くの関係者に支えられ、心を癒してくれた故郷と、今でも親交を重ねる母校の友人らの存在が大きかった。東京下呂益田会会長等もしながら、揺るぎない絆を大切にしている。先日も全国紙の「心の玉手箱」の連載に山紫水明の故郷を語った。創立一〇〇周年にあたり、母校の益々の発展と素晴らしい故郷を誇りに夢と情熱を持って前進されることを祈念しております。

## 故郷下呂を守る多くの卒業生



株式会社ハウテック  
代表取締役 中川正之  
社長  
益田 昭和47年卒

私が益田高校を卒業して五十年、随分と多くの月日が経過したものです。在学中の一番の思い出は、厳しい中にも楽しかったテニスの部活動で、放課後の練習や春休みの合宿、県大会での試合など未だに懐かしさがよみがえってきます。

今、当社の本社には三〇〇名余の社員が在籍していますが、その内益田高校・益田南高校・益田清風高校の卒業生は一八〇名にもなり、全ての部門で大活躍をしている彼らは当社にとってなくてはならない存在となっています。

残念な事は、近年当社に限らず新卒者の地元就職が非常に少なくなっている事です。若者が一度は都会に出て暮らしたいという気持ちも理解できますし、下呂には都会ほどの魅力がない事もあるでしょう。又、就職先である我々企業の実力も不足しているのだと思います。しかし故郷下呂で頑張っている多くの卒業生がいるのも事実です。下呂市で就職して生活基盤を築く事は、大切な故郷を守る事だと意識してみるのも良いのではないですか。あと二年で一〇〇周年を迎える伝統ある益田清風高校。この伝統を絶やす事無く未来に繋ぐためにも、OBは勿論のこと現役の学生の皆さんも地域の発展の為に頑張ろうでは有りませんか。

## 野球と目標



東京地方検察庁  
次席検事 森本 宏  
益田 昭和61年卒

令和六年に本校が百周年を迎えることを同窓生の一人として大変嬉しく思います。

私は、昭和六十一年に益田高校を卒業しました。高校時代は、硬式野球部で三年夏まで野球に打ち込みました。当時、甲子園出場は遠い夢でしたが、それに近づけるようチームメイトとともに、毎日練習に明け暮れました。野球を通じて、目標を持ち、それに近づくために目的意識を持って行動し、日々、練習を継続することの重要性を学びました。

そのことがその後大いに役立ちました。私は、高校時代に、弁護士になりたいと思い、司法試験にチャレンジするという目標を持ちました。大学進学後、司法試験に合格するためには、いつ何をどれだけ習得する必要があるかを考え、大学生活を楽しみつつも、野球の練習と同じように、日々、法律の勉強を継続し、何とか在学中に司法試験に合格しました。その後、弁護士ではなく検事になりましたが、これまで充実した仕事を続けられています。

後輩の皆さんたちにも、本校在学中に目標を持って取り組むことを是非学んでいただけたらと願っております。

## 南校を思う



旧益田南高等学校  
同窓会長

今井 誠

益田南 昭和52年卒

益田清風高等学校創立百周年おめでとうございます。私を通った益田南高校の歴史は昭和四十九年四月に旧下呂町の少ヶ野の仮校舎で百十五名の第一期生により「直心・友愛・努力」の校風のもと始まりました。昭和五十年に新しく校舎も完成し、昭和五十一年末に体育館も完成しなにか卒業式だけ体育館で行うことができました。先輩のいない三年間は気が楽なところもありましたがやはりなんとなく淋しかったような気がします。部活動もなかなか活動もできず、私自身野球部をつくりましたが（卒業アルバムには同好会で写真）認めてもらえずグランドもサッカー部に占領されている中でノックをしたりしました。部活動も勉強もすべてにおいて中途半端な高校生活ではありましたが地元の方々の期待を胸にぎざんでやってきたつもりです。少子化の波により益田南高校は三十一年の歴史に幕をおろし、平成十七年より益田高校と益田南高校が統合し益田清風高校として新たにスタートしました。愛着のある高校の名が消え、いまだに複雑な思いを抱いておりますが、校名が変わっても新たな母校としてこれからは出来る限り協力していきたいと思っております。これからもさらなるご発展と後輩諸君の益々のご活躍をお祈りいたします。

## 益田清風吹奏楽部よ、永遠なれ！



服部 秀洋

益田南 昭和52年卒

私が同窓会副会長のお役目を頂いていた創立九〇周年記念式典の折、校歌メドレー「そして未来へ」が作られました。益田農林学校校歌（戦前）、益田高等学校生徒讃歌、そして今歌われている益田清風高等学校の校歌を小坂法幸先生がアレンジされた曲です。下呂市民吹奏楽団の一員でもある私は、とても感慨深い思いで演奏させて頂きました。先日、二年前りに開催した第十六回下呂市吹奏楽祭でも素晴らしい演奏を披露して下さいました。

創立九〇周年の折には五十名ほどみえた団員が現在は三十二名とB編成ながら、本年はみごと県大会に出場されました。清風吹奏楽部のOBが中心となつて下呂市吹が発足した経緯もあります。

音楽は時には人の心を慰め、そして大きな感動を与えてくれる、とても素晴らしいものです。そして私のように還暦過ぎて一員として演奏に携わる事ができます。一〇〇周年には是非とも揃いの白いブレザー姿で式典に花を添えて下さい。皆さんのご活躍を期待しています。弥栄、益田清風吹奏楽部！

## 私の人生で

### 続けてきて良かったこと



伊藤 三枝

益田南 昭和53年卒

私は太鼓を始めてからもう二十五になります。名前は女性ばかりのチーム「華響」といいます。年に十回以上イベントや老人ホームで太鼓を披露してきました。今は新型コロナウイルスでイベントも何もないですが仲間たちと練習は楽しくやっています。自分にとって無になれる唯一の時間です。始めた頃は、子供も小さくお姑さんの介護もあつて辞めてしまおうかなんて何度も思いましたが、家族皆の理解と協力のお陰で続けてこれたのだと感謝の気持ちでいっぱいです。

二十八年前、私は子宮癌になり、名古屋の国立病院で手術をして入院していました。飛驒から出たことのない私にとって入院生活は不安と寂しさと悲しきで落ち込んでいましたが、金の鯨を見ながら自分を奮い立たせ、もし病気が治って元気になれば自分自身に生きがいを見つけて人生を無駄にしないよう生きたいと心に誓いました。幸い転移もなく順調に回復でき、その時に出会ったのが太鼓です。私にとって太鼓は魂です。現在、六三歳の私ですが、ギネスブックに載れるくらい元気で太鼓が続ければ嬉しいと思っています。

## 地域と繋がる学校



長尾 孝広

益田 昭和53年卒

会員の皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。大正十三年に創立されてから令和六年には創立一〇〇周年を迎える記念すべき日に益田清風高等学校同窓会の皆さんと一緒に迎えられることは大変に嬉しく思います。最初の益田農林学校から現在の益田清風高等学校まで時代の流れでさまざまな変化をしてきましたが、この地域には必要性の高い学校には変わりありません。私を含めて妻と子供たちも全員がこの学校を卒業しました。いつか孫たちも行つて欲しいと願っております。

さて益田清風高等学校では地元地域との関わりを持った授業があります。学校内だけでは学べない貴重な学びの時間になり地域社会で活躍できる可能性を芽生えさせてくれるのではないかと期待しています。私は金山町で、飛驒金山まちゼミという商店街を盛り上げるイベントをやっていますが、その中で、いつか学生たちにも参加させて自分が町における必要なポジションを見つけて意識改革してくれば人口の流出の歯止めにもつながるのではないかと考えています。結びに同窓会報の作成や創立一〇〇周年記念事業に向けて準備等にご尽力を捧げていただいている会員の皆様に感謝を申し上げます。

## 私の原点



辻調理師専門学校  
西洋料理 教授

小池 浩司

益田 平成4年卒

私は高校時代より、下呂にあるホテルの調理場でアルバイトに励んできました。調理場に入ると『ワクワク感』が込み上げてきて、見るものすべてが新鮮だったことを思い出します。その時からどんな料理にのめり込んでいくようになり、高校卒業後は大阪の専門学校へ、そしてフランス留学と自分で決めた道を進んでいくようになりました。

今思うと、料理に興味を持った原点が下呂にはあったんですね。観光地としても有名で、飛騨牛や鮎をはじめ美味しい食材に囲まれて育ってきた環境が私の料理の基礎になっています。

現在では、総合学科 食文化系列の講師として毎年授業を行わせていただいています。授業を受けている高校生たちが目を輝かせながら取り組む姿は、すごく楽しそうなんです。真面目さももちろんですが、楽しみながら好きなことに打ち込む気持ちが必要だと感じています。

これから下呂市を盛り上げていくために、食文化系列を卒業した学生たちが地元でお店をオープンしてくれたらとても嬉しく思います。まもなくすると創立百周年。これからも変わらず、未来を担える人材を育てる学校であり続けてほしいものです。在校生・卒業生の皆様のご多幸を祈念致します。

## 手探りのススメ



義足のダンサー

大前 光市

益田 平成10年卒

私は今「義足のダンサー」として日本だけでなく世界で活躍しております。下呂市で生まれ十八年かけて培った感性は私の原点となっております、今でもあの頃の初心は忘れていません。

私の益田（清風）高校での思い出は、演劇部でした。ホコリをかぶった部屋で弱小の演劇部でしたが、そこから将来に夢を描きました。高校三年間は演劇に明け暮れ一生懸命に練習しました。夜の体育館での練習は楽しかったな！

あるとき劇団四季のCMを見て憧れを抱いた私はダンスや歌を習うため、教えてくれる人をタウンページで調べ電話をかけ、国道四十一号線で車をヒッチハイクし、高山まで稽古に通っていました（当時、下呂市にはダンスを教えてくれる人がいなかったんです）あの頃の「手探りで探す」という行動が今は自信になっています。

車もない、バイトできてもお金があまりない、情報も少ない、時間がかかる、そういう環境が自分を作ってくれた。先のみえないトンネルの中でも憧れを抱き、小さな可能性の光をみつけて、一人でもやれることをして、自分らしく、充実した人生を作ってほしいですね。

## 経験はすべてプラス



MELOの化粧品

細江 ゆか

益田 平成12年卒

創立一〇〇周年、誠におめでとうございます。益田高等学校商業科に入学したのは、今から二十五年前。高校三年間は簿記資格を積極的に習得し、部活動においても仲間と共に汗を流した事が今でもキラキラと蘇ります。アトピー性皮膚炎で悩んでいた私は、突然顔全体が強烈な痒みに襲われ、浮腫んだ顔の時期がありました。同級生の「きつと良くなる！大丈夫」と言ってくれる励ましで、休むことなく登校することができました。

卒業後は、地元企業に経理事務員として四年間勤務。二十三歳で結婚、三児の母となりました。その後大手化粧品メーカーで販売員として多くの勉強をする中、敏感肌でも安心して使える化粧品の必要性を強く感じるようになり、二年前マイブランド化粧品を創る！と決断しました。現在下呂市火打に「株式会社 MyLee 化粧品」本社を構え、無添加自然派化粧品開発・販売の他にフェイシャルトリートメント業務を行っております。会社運営にあたり高校時代の簿記、就職先での経理が大いに役立っており、自身の肌トラブルを含め人生経験はすべてプラスだと感じております。今後は下呂市から全国にキレイを発信し続けます。

## 地元を誇り 感謝して



クチーナ  
オルセッティーナ

熊崎 志保美

益田清風 平成18年卒

この度は記念すべき百周年の同窓会報にこのような機会をいただき大変光栄に思います。私は高校卒業後は将来地元に戻ってくる思いで、京都の調理師専門学校へ進みました。その後仕事先のレストランで料理人の夫と出会い、結婚、六年後に地元に戻って参りました。今は夫婦でイタリア料理店を営んでおります。

料理の世界を目指そうと思ったのは、高校三年の後期になってから。それまでとにかく学校生活を楽しみ、美術部での活動や文化祭に力を注いだことが強く記憶に残っています。今はまだ将来の夢が見つからないという人がいるかもしれませんが、焦らなくても大丈夫です。今日の前にある課題や興味のあることに一生懸命になれる自分でいられれば、やりたいうことや方向性が見えてくる。それが変化していてもいいのです。常に小さな分かれ道を選択しながら磨いていくことが大切なのだと思います。

都会のレストランで働くのも魅力的です。しかし私の本当に目指すところは、自分の生まれ育った地で店を構え、地域の人たちに愛されながら下呂を少しでも元気にすること、今それが叶いつつあることに大きな幸せを感じています。

## 母校への思い



### シンガポール

美容師  
レヴォラ 菜都美 (旧姓中原菜都美)  
益田清風 平成20年卒

私はシンガポールで美容師をしていました。愛知県で美容師として経験を積んだ後、28歳で渡星し、4年程シンガポールの美容院で働きました。シンガポールは世界中から人が集まっている国なので、現地の人だけでなく様々な国の人達と深く関わることができて、考え方の幅が広がりましたし、改めて日本の素晴らしさにも気付くことも沢山ありました。今はまた違う国に住んでいますが、これからも日本やそれぞれの国の違いを楽しみながら過ごしていきたいと思っています。



### やりがいを見つけて

ホナミルクラブ  
松井 穂波 (旧姓 熊崎)  
益田清風 平成24年卒

豊かな自然の中で生まれ育ち在学時に地元就職をしようとしていましたが、父に北海道に連れて行ってもらい、いきいきと仕事をする農家さんに出会った事がきっかけで、農業の道へと進みました。大学校、研修先で様々な形の農業を知り、自分、地元にあった農業を始め、たくさんの方々とお会いしました。私が楽しく仕事や私生活ができているのは、周りの方々そして恵まれた環境のおかげです。これからもたくさんの方々に笑顔にできるような農業を通して、頑張っていきたいです。



### 私が大切にしていること

インターコンチネンタル石垣リゾート 宿泊部  
間所 佳奈子  
益田清風 平成24年卒

益田清風高校を卒業して10年が経ちました。大学を卒業後、航空業界で客室乗務員として国内、海外への乗務を約6年間勤め、現在は沖縄のリゾートホテルにてゲストを相手に毎日奮闘しております。私が常に大切にしてきたことは「感謝の気持ちを持ち、言葉で伝えること」です。夢を持ち、叶えるまで自分自身の努力はもちろんですが、それと同時に周りの方から沢山サポートしていただきました。普段と変わらない日常の中にも沢山の人が支えてくださり、応援してくださっていることを忘れず、常に感謝の気持ちを持ちながら今後も過ごして参ります。



### 続ける

漫画家  
日下部 裕平  
益田清風 平成27年卒

13歳で漫画を描き始め、25歳で連載を始める事ができました。運やタイミング等の要素は正直あると思いますが、僕に才能があったから漫画家になれたとは思っていません。一番の理由はずっと漫画を描き続けてきたことだと思います。何でもそつなくこなせる人もいますが、継続してきた人との自力の差は必ず出てくると思います。特に若い頃の吸収力は桁違いです。後々後悔しないように色々な事に全力で取り組んでみてください。応援しています。



### 母校への感謝

会社員  
今井 幸司  
益田清風 平成24年卒

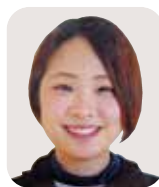
卒業から約10年が経ち、益田清風高校で過ごした3年間は転機となったと感じます。インターアクト部の英語ディベートと自然科学同好会の研究を両立する中で、英語と研究を強みにしたいと思いました。大学進学後も継続した英語ディベートでは北東アジア大会で優勝し、大学院在籍時は英語と専門性を活かしイギリスの大学へ短期の研究留学をしました。これらの経験を活かし、現在はメーカーで研究開発をしています。顧問の先生方に支えて頂いた部活動のおかげで、その後に繋がる自分の強みに出会うことができました。本当にありがとうございました。



### 私を育ててくれた下呂の町

岐阜県立可茂特別支援学校 教諭  
西川 妙望 (旧姓 井上)  
益田清風 平成24年卒

私の故郷「下呂」は、優しく温かい人たちがいて、豊かな自然に囲まれた地域です。私は、現在障がいのある児童生徒が通う学校の教諭として充実した毎日を過ごしています。私の今が在るのは、下呂の素敵な環境で育ったからだといっても過言ではありません。下呂からもらった様々な経験に感謝し、これからの人生を豊かに過ごしたいと思っています。



### 部活動を通して学んだこと

保育士  
桂川 真弥  
益田清風 平成27年卒

3年間バレーボールに打ち込む毎日でした。楽しいことよりも苦しいことの方が多く、厳しい練習をしても結果に繋がらない悔しさを経験しました。仲間がいたからこそ共に励まし合い、練習に耐え、目標に向かって努力し続けることで結果、3年生最後の大会で全国大会に出場することができました。技術面以外に周りへの感謝、協調性、考える力など部活動を通して得たものは結果以外にもたくさんあります。厳しい日々を過ごしたことを懐かしく思いながら、今は地元で保育士として充実した日々を過ごしています。



### 高校時代を振り返って

富士通株式会社  
小越 智就  
益田清風 平成28年卒

私は益田清風高校で始めた弓道に、明け暮れていた思い出があります。弓道を通じ大学に入学した後、現在は会社の実業団にも所属しております。高校時代に熱中したものを現在でも続けられていることは、益田清風高校での部活動が非常に充実していたからだと感じています。

部活動では弓の技術だけではなく、人として大切なことを教えていただきました。これからも清風OBとして立派な人間になれるように精進して参ります。



## 税務のプロとして

日本経営ウィル税理士法人

川上 誠仁

益田清風 平成29年卒

創立100周年おめでとうございます。

私は高校時代、社会貢献できる税理士を目標に、簿記の学習に注力しました。卒業後も努力を重ね、21歳で税理士試験に合格しました。現在は税務のプロとして、知識をお客様に還元できるよう努めています。

会計や税務は、常に社会から必要とされる知識です。不断の努力で大きな道が拓けます。今はまだ道半ばですが、益田清風高校から全国・世界で活躍できる人財となれるよう、これからも精進して参ります。



## その時君の命は燃えているか

TRUSTAR所属 第33回ジュノン・スーパーボーイ・コンテストファイナリスト ミュゼボーイ賞受賞

北村 一貴

益田清風 平成30年卒

「夢」ありますか？大人だから、まだ子供だから。夢が大きい、小さい。関係ないです。自分にとって曲げられないことがありますか。僕はあります。僕は誰かにとっての「なりたい」、存在になります。それを追いかけていたら応援してくれた下呂の人たちがいました。そんなあなたがいってくれたから、母校・地元があり続けてくれるから、僕は頑張れます。

## 令和3年度 卒業生の思い

### 三年間を振り返って

ビジネス情報科 森 心優菜

高校3年間を振り返ってみると本当にいろんなことがあったなと思います。1年生は初めてのことがいっぱいでした。商業科に入り、簿記や情報処理など商業科目を一から学んでいくのはとても新鮮だった印象があります。検定では私はタイピングが苦手だったので苦戦することが多かったけど受かった時の嬉しさや達成感はすごく、来年以降も頑張っていこうと思いました。それに新しい友達もでき、みんなで休み時間にはしゃいだり、学校帰りにご飯を食べに行ったりとても楽しかったです。

しかし、新型コロナウイルスの流行により楽しみしていた行事も軒並み中止になり、それどころか当たり前だった学校生活さえ送れない日々が続きました。久しぶりの学校で友達とまた話せるようになり何気ない日常の大切さに気付くことができました。この経験は忘れられないし、3年間の財産になったと思います。私生活ではアルバイトを始め接客やお金を稼ぐことの大変さを知り、両親へ感謝の気持ちもよりいっそう強まりました。

また2年生からは系列に分かれての授業が始まり、自分のやりたいことをより詳しく学べて楽しかったです。特に情報の授業ではイラストの作成、映像作品、ゲームのプログラミングなど自分の好きなことをしながら学びを深めることができ、貴重な経験になりました。それは三年生でも同じです。特にビジネス情報管理の授業ではテーマにあったロゴを描くという授業をし、テーマの要素を入れたり、かわいくなるように考えてデフォルメにしたり、色塗りにもこだわり作りました。今までは好きなものを描くというのが多かったのですが、要望に沿ってデザインするというのは将来絵を描くことを仕事にしたい私にとってとても勉強になりました。

私は卒業して東京の専門学校でアニメーションの勉強をします。この学校で学んできたことを大切にしながら自分の夢をかなえるために頑張っていきます。

### 部活動から学んだこと

普通科 熊崎 冬華

私はこれまで、自分の選択に責任をもって取り組むことを意識してきました。高校や大学へ進むと決めたこと、弓道部に入ると決めたことなど自分で選んだことに一生懸命取り組んできました。

学習では理解できないところは諦めずに先生や友達を頼って納得できるまで教えていただきました。時間は沢山かかりましたが暗記だけの学習にはせず「なぜ」を考えるようにしていました。

弓道部で矢数をかける中で、友達や先生にアドバイスしてもらいながら自分と向き合い成長し、信頼できる仲間を得られたことは大きな収穫でした。インターハイ予選前に先生と仲間にかけてもらった言葉は一生忘れません。

三年間苦しい思いをすることも多かったです。それでも真剣に取り組む努力を続けていると楽しさを感じることもありました。今、そしてこの先ここで過ごす皆さん、一つでもいいから目の前のことに真剣に取り組む続けてみてください。きっと「やってきてよかった」と思えます。

最後に、創立100周年おめでとうございます。伝統ある本校を卒業したことをこれからも誇りに思っています。

### 地域から愛される学校へ

総合学科観光文化系列 片田 優星

私は総合学科観光文化系列で主に観光業について学びました。1年生後半からコロナ禍に入り学校外での販売実習が長期間行えませんでした。今年度に入り「トマトランド」という全て自分たちで運営する直売所で初めて販売実習をしました。販売実習の経験が少なかったことがあり十分な接客ができるか不安でしたが、系列授業で観光業について学んでいたので安心して販売実習をすることができました。他3つの系列でもそれぞれ特色のある授業をしています。

この学校は令和6年に創立100周年を迎えます。様々な歴史と伝統のある地域唯一の学校をいつまでも大切に、そして地域から愛され続ける学校にしていってほしいです。



桜の下で...

### 同窓会を装う偽電話 振り込め詐欺に ご注意ください

同窓会を装う偽電話  
振り込め詐欺にご注意  
ください。

数年前から学校職員  
を装い、卒業生の住所・  
電話番号を聞き出す不  
審な電話の情報が寄せ  
られています。同窓会  
による電話での名簿の  
調査は令和三年に実施  
された名簿作成の時の  
みです。また、他校で  
は名簿を使ったと思わ  
れる振り込め詐欺が起  
こっています。不審な  
電話にご注意ください。

### 証明書の発行について

卒業証明書、単位修  
得証明書、調査書が必  
要な方は益田清風高校  
のホームページ「証明  
書発行」をご覧になる  
か、益田清風高校にご  
連絡ください。

交付には「証明書交  
付願」受付から発送ま  
で約一週間かかります。  
余裕をもって御申し込  
みください。

### 編集後記

この度、発行の運びとなりました同窓会報第三号は、令和六  
年に創立一〇〇周年を迎えるにあたり、益田高等学校、益田南  
高等学校、益田南高等学校定時制課、程益田高等学校下呂分校、  
益田清風高等学校、それぞれの同窓生から「母校への思い」を  
ご寄稿いただき制作されたものです。

一〇〇年の歴史の中で、この学舎から、多くの方が卒業され、  
幅広く活躍されています。親子三代にわたって本校の同窓生  
の方もいらつしやいます。地域の方々に支えられ、ともに成長  
した学校で、その歴史の重みを感じます。

毎年、春には満開の花を咲かせ、私たちを楽しませてくれる  
桜並木も、「農林坂の桜」、「益高坂の桜」、「清風坂の桜」と世代  
により愛称を変え、地域の方々から親しみ続けられています。  
これからも地域の方に愛され、子供たちの憧れの学校となるよう、  
これまで刻んできた歴史のバトンを引き継いでいってほしいと  
思います。

変化の激しい時代ですが、令和六年、満開の桜とともに創立  
一〇〇周年を皆様と祝うことができますよう願っております。  
同窓会報の発行にあたり、ご多用の中、原稿、写真の提供を  
いただいた方々に深く感謝するとともにお礼申し上げます。

本校同窓会員の熊崎勝彦氏が、五月十三日ご逝去されま  
した。この会報にご寄稿いただいた際には、お元気に過ご  
されている様子を拝察しており、突然の訃報に驚かされ  
ました。東京地検特捜部長や日本プロ野球コミッショナー  
などを歴任されるなど、華々しいご活躍を重ねられました  
熊崎様のご逝去を悼み、同窓会員一同心よりご冥福をお祈  
り申し上げます。

### 編集委員

細江大嗣・青木幸美・早川順子・小口晃生・船坂新也  
奥田朋子・小林康哲・青木俊平